

実用的なツールウォッチから 文化的アイコンモデルへ

ビッグ・パイロット・ウォッチは、コックピット用の専門的な計器類のひとつとしてのIWCシャフハウゼンが長年にわたり蓄積してきたすべての専門技術を具現化するウォッチです。同時に、実用的かつ極めて機能的なデザインと長く続く特別限定モデルによって文化的アイコンとしての地位も確立し、その魅力は時計業界をはるかに超えて広まっています。

印象的な円錐型のリューズ、4個のリベットが配されたストラップ、シンプルで読み取りやすい文字盤、IWCシャフハウゼンのラインナップの中でも、ビッグ・パイロット・ウォッチは有名ですぐにそれとわかるモデルです。

今やアイコンとなったこのモデルの物語の始まりはミレニアムの変り目でした。“ビッグ・パイロット・ウォッチ - マークXXI”プロジェクトチームは、当時の社長ギュンター・ブルムラインの後押しを受けて、一步も立ち止まることなく画期的な新しいパイロット・ウォッチの開発に取り組みました。それは単に、頑丈で信頼性の高いコックピットツールとしての計器のイメージのみならず、パイロット・ウォッチの未来への新たな方向性を打ち出すことでした。そして、その時は2002年4月に訪れます。直径46.2mm、厚さ15.2mm、重量150g、IWCの“ビッグ・パイロット・ウォッチRef. 5002”が発表されたのです。

センターセコンドと懐中時計用ムーブメントサイズを備えたキャリバー5001をはじめとして、このウォッチはすべてが並外れていました。IWCは、キャリバー5000ファミリー向けとして、再びアルバート・ペラトンの独創的な自動巻きシステムを採用しました。この高度な機構は、ローターの両方向のどんな小さな動きも活用して主ゼンマイを巻き上げるため、非常に効率的です。また、IWCの自動巻きムーブメントで7日間パワーリザーブを備えるのも初めてのことでした。

視認性に優れたコックピット計器を思わせる、妥協を許さない機能的なデザインは、ビッグ・パイロット・ウォッチ52 T.S.C.からインスピレーションを得ています。この軍用観測時計は直径が55mmで、1940年の発表以来、今なおIWC史上最大の腕時計の座を守っています。特大のリューズも、歴史的な祖先にあたるこのモデルと現在のビッグ・パイロット・ウォッチに共通するもうひとつのディテールです。これにより、パイロットは中綿入りのフライトグローブをはめた状態でもウォッチを調整することができます。

外観上、ビッグ・パイロット・ウォッチは2002年以降、小さな変更しか加えられていません。この間に、文字盤から9が消え、インデックスはわずかに変更されましたが、その姿は常に極めて実用的なDNAに忠実なままです。ただし、ケース内部の機構は長年にわたり継続的に改善を重ねられてきました。2006年、“ロービート”キャリバー5011が3Hzのキャリバー5111に変更され、2016年からはビッグ・パイロット・ウォッチにもキャリバー52000ファミリーのムーブメントが採用されています。セラミック製のパーツで強化されたペラトン自動巻き機構が組み込まれており、2つの香箱を使用してパワーを蓄えます。

それからわずか数年の内に、ビッグ・パイロット・ウォッチは、実用的な“ツールウォッチ”から文化的アイコンへと進化を遂げ、その魅力は今や時計業界をはるかに超えて広がっています。この成功には、限定生産されたおよそ80種類

の特別モデルも大きな役割を果たしました。それらの中には、一般の販売店で購入できるものもあれば、特定のブティック限定のものもありました。多くは大胆で人目を引くカラーが特徴で、長年にわたってコレクターズ・アイテムとして人気を博しています。中でも忘れ難いものとして、ジョーダン・ビッグ・パイロット・ウォッチ“プラチナブルー”、ビッグ・パイロット・ウォッチ“モハメド・アリ”、あるいはドイツサッカー連盟のために作られたビッグ・パイロット・ウォッチ“DFB”などがあります。

ビッグ・パイロット・ウォッチには“ツールウォッチ”としての長年の伝統がありますが、複雑機構にまったく縁がないわけでもありません。それは、ビッグデイトとアニユアル・カレンダーから永久カレンダー、コンスタントフォース・トゥールビヨンにまで及びます。

誕生から20年近くの歳月が流れる中、考えられるあらゆる素材を用いたデザインが発売されてきました。ステンレススチール、チタニウム、18Kレッドゴールド、ホワイトゴールド、プラチナに加え、セラミックとカーボンのモデルも登場しました。

ビッグ・パイロット・ウォッチは、多くの企業家、芸術家、俳優、アスリートに選ばれるモデルです。アメリカの映画産業の中心であるハリウッドには特に著名な愛好家があり、スポーツ界でも数々の有名選手が愛用してきました。

そして2021年、IWCは今も“プロジェクトXXI”のサクセスストーリーを描き続けています。シャフハウゼンに拠点を構えるIWCは、日付表示窓もパワーリザーブ表示も排したビッグ・パイロット・ウォッチ43で、人間工学に基づいた43mmケースを採用することで象徴的なデザインをさらに純粋に仕上げました。ケース、ラグ、円錐型リューズのプロポーションはそのままです。そのため、ビッグ・パイロット・ウォッチ43は、ややコンパクトになったとはいえ、着用時には有名なその名前から連想されるスケール感を十分に感じさせます。

IWCシャフハウゼン

1868年、米国の時計技師であり、起業家でもあったフロレンタイン・アリオスト・ジョーンズはボストンからスイスへ渡り、シャフハウゼンに「インターナショナル・ウォッチ・カンパニー」を設立しました。彼が描いた夢は、先進的なアメリカの製造方法とスイスの時計技師たちが持つ優れた職人技を組み合わせ、その時代の最高の懐中時計を作ることでした。そして彼はIWCの独創的なエンジニアリング手法の基礎を築き上げ、スイスの地で機械式時計の集中生産を確立しました。

IWCシャフハウゼンは150年にわたる歴史の中で、正確かつ頑丈で、顧客にとって使いやすいクロノグラフやカレンダーなどの機能を組み合わせた時計を生み出すことで高い名声を得てきました。またIWCは、チタンやセラミックなどの素材の先駆者であり、チタンアルミやセラタニウム[®]などの先進的な素材を用いたテクニカルウォッチケースの製造もおこなっています。華美な装飾よりも「形態は機能に従う」という原則を優先するスイス時計メーカーとして、時代を超越した製品への思いは、まさに人生を旅するオーナーたちの夢と志を体現しています。

IWCは、責任を持って素材を調達し、環境への影響を最小限に抑える措置を講じながら、何世代にもわたり受け継がれる持続可能な時計を生み出しています。また、すべての従業員に快適な職場環境を提供し、誇りをもって未来を担う時計職人とエンジニアたちへのトレーニングを実施しています。さらに、IWCは子供たちと青少年への支援に向けて世界的に活動している組織とも提携しています。

ダウンロード

新しいビッグ・パイロット・ウォッチ43の画像は、press.iwc.comで無料でダウンロードいただけます。

お問い合わせ

IWCシャフハウゼン

広報部門

Email press-iwc@iwc.com

Website press.iwc.com

インターネットおよびソーシャルメディア

Website iwc.com/ja

Facebook facebook.com/IWCWatches

YouTube youtube.com/iwcwatches

Twitter twitter.com/iwc

LinkedIn linkedin.com/company/iwc-schaffhausen

[iwc-schaffhausen](https://linkedin.com/company/iwc-schaffhausen)

Instagram instagram.com/iwcwatches_jp

Pinterest pinterest.com/iwcwatches